



英スターン報告書、温暖化へ警鐘

英国ゴードン・ブラウン財務大臣の依頼を受け、経済学者である **Nicholas Stern** 卿が地球温暖化の経済的コストを調査した。それによると、温暖化のコストは極めて高く、20 世紀前半に経験した世界大戦や恐慌の際のコストに匹敵するという。しかし同時に、温暖化のコストを削減するために効果的な対策を実施することが、今からでも決して遅くないことを明らかにした。

Stern Review on the Economics of Climate Change

<http://72.14.235.104/search?q=cache:JBf5kbAoniwJ:dakis.fasid.or.j>

[p/report/jxpdf/jxl-23.pdf+nicholas+stern&hl=ja&ct=clnk&cd=18&gl=jp](http://report/jxpdf/jxl-23.pdf+nicholas+stern&hl=ja&ct=clnk&cd=18&gl=jp)

気候変動に関係する経済学および投資での最近の動向：Nicholas Stern は、気候変動の経済学に関する同氏のレビューを提出した、この中で同氏は、気候変動を「世界最悪の市場の失敗」と評した。同氏は、今後 10-20 年間での緊急な取り組みを強調し、温室効果ガスの大気濃度安定化のための強力かつ早期の取り組みにかかるコストは、世界の GDP の 1%に過ぎないとし、「緩和は成長の物語である」と指摘した。同氏は、長期的な目標と短期的な柔軟性が重要であることを強調したが、それと同時に説得や公平性も重要であるとし、炭素市場の連結、技術の開発と明確な政策も強調した。また Stern は、森林減少の問題に取り組む国主導の努力、適応と開発の密接な関係にも注目し、ODA の増額や世界のエネルギー研究開発の拡大を提案した。同氏は、最後に、行動を遅らせることが深刻な経済的影響を及ぼすと警告し、排出を削減するためのコストは成長とも合致するものだが、明確かつ強力な取り組みを早急に進める必要があることを想起した。

Stern は、質問に答えて、特に次のことを強調した：どの単独の安定化目標であれ、そのための固有の経路というものはないこと、適応には各地の条件が重要なこと、総合的な気候モデルでは小島嶼後発途上国（SIDS）を十分適切に取り上げていないこと、財務大臣の参加が必要なこと、国際協定の推進に必要な信頼関係を築くには炭素市場で投資の流れが生み出されることが重要なこと、緩和コストとそれが競争力に与える影響が過大に強調されていること、エネルギー集約型産業での国際的な部門別協定、途上国は、それぞれの地理的な位置で苦しむことが多く経済の多角化が進んでおらず対応するだけの資源も乏しいこと。

<http://72.14.235.104/search?q=cache:0e3jYM3r1SwJ:www.iisd.ca/climate/cop12/japanese/enb12316j.pdf+nicholas+stern&hl=ja&ct=clnk&cd=30&gl=jp>